

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

実習助手（高等学校）

評価領域	着眼点
I 実験・実習等の指導計画の作成・実施・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心に応じて、担当教諭と連携しながら、教材・教具等の工夫を進めている。 ・実験・実習の事前準備や事後処理が適切に行われ、指導計画に沿った円滑な授業の進行に貢献している。 ・生徒の学習意欲を向上させるため、担当教諭と連携し、実験・実習方法等の工夫・改善に努めている。
II 実験・実習等の施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な環境で授業を行えるよう、実験・実習で使用する設備、教材等の点検・整備・管理に努めている。 ・担当教諭と協力して、実習室等の安全管理を確実にしている。 ・実験・実習の後、施設・設備の適切な活用等の問題点を洗い出し、改善するよう努めている。
III その他の校務等 校務分掌等	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の意義や自らの役割を理解し、適切な活動を展開し、責任を果たしている。 ・分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。 ・保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進している。 ・教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。
チームワーク行動	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。